

# Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷株式会社

## 4月レクリエーション例会開催!

4月21日(日)、総務委員会担当による4月レクリエーション例会が、雨天のため日吉津村立農業者トレーニングセンターに場所を移して開催された。

綱領唱和のあと、土井直前委員長の開会宣言、岩田会長の開会挨拶で幕を開けた。2回目のトライアスロン啓発タイムが持たれ、中本会員の「やるぞ〜!」の掛け声で意思統一を図った。準備体操のあと、最初の種目へ。「走れ!周富徳」一フライパンとレンゲにピンポン玉を乗せてリレー。次に「ガチンコ尻相撲」一中央会さっきの巨漢土井直前会長と小柄な後藤太良会員の対戦が行われ、後藤会員が土井直前会長を尻で飛ばす場面もあった。「ディスクゴルフ」一低い玉入れのかごのようなものにフリスビーを投げて、かごに入るまでを競う。近岡会員のご子息が見事ベストスコアを獲得。

午前の部が終了し、会員とその家族が和気あいあいと親睦を深めながら昼食をとった。昼休憩の合間には、子供さん全員参加による「お菓子釣り大会」が催され歓声が湧き起こった。

午後の部しょっぱなは「委員会対抗ドッジボール大会」一大人気ないプレーにブーイングを浴びる委員会も…。また、萬田副会長が後頭部からフロアに倒れ、5分間意識不明というハプニングもあった。「下駄飛ばし大会」に続いては「だるま落とし」一あとになればなるほど要領がわかってくる競技。1分もかからずに競技を終えた委員会も。最初にやったきずな委員会の「泣きの1回」も不発に終わる。

最後の種目は「委員長対抗仮装大賞」。愛犬(?)と共に湯原委員長(きずな)が「西郷隆盛」で登場。若槻委員長(情報メディア)は「セーラームーン」。潮委員長(モラル)は「ナース(?)」。桶村委員長(広報)は「もじもじ君スケーター」で登場。次に、伊藤委員長(政治行政)もまたまた「ナース」。岩崎委員長(経営)に至

っては「バレーナ志村けんバージョン」で登場し、子供たちの冷めた好奇心をさらっていった。高田委員長(Newカマーズ)は「鬼がわら権蔵」。最後に、久古委員長(総務)が「ミニスカポリス」で登場する頃には、会場の笑いは最高潮に達した。

すべての競技が終了し、閉会式および表彰式が行われ、優勝の栄冠は経営委員会が獲得した。続いて、各賞が発表され、会長賞には「だるま落とし」でのフェールチップが効いたのか萬田副会長が獲得された。最後に、奥森直前県会長の万歳三唱でレクリエーション例会は幕を閉じた。

(広報：野口 学)



## 温故知新

今回は第23期会長、24期で卒会の小原得雄OBにお話を伺いました。



—ご自身の中央会活動を振り返っていただけますか?—

入会したときは30歳でしたので、何やら「おっつあん」達の集まりの会に入ったなあ。という印象を受けました。しかし、その「おっつあん」達の中にはすばらしい先輩がたくさんいました。先輩たちは浅学非才の私に対し様々な役割を与え、結果の出来不出来にかかわらずその都度「ご苦労さん!」とねぎらいの言葉を掛けてくれました。それが私の中央会ライフを支えてくれ、卒会までのエネルギーになったと思います。仕事は一度失敗したら取り返しがつかなくなることがありますが、中央会ではそれが一生懸命取り組んだ結果だったとしたら、再びチャンスを与えられ敗者復活戦にチャレンジすることができます。失敗を成功の過程として温かく包みこんでくれる優しさがあります。自ら積極的に求めていけば、多くのものを体得できるすばしい会だったと思います。お陰で、卒会時には元気のいい「おっつあん」に変貌することができました(笑)。

—OBの立場からご覧になって現在の青年中央会をどう思われますか?—

「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に」という言葉がありますが、青年中央会も時代とともに構成員が変わっていくもので、その結果、会の有様も変わっていくのは当然です。時として「故きを温ね、新しきを知る」ことも必要ですが、更なる飛躍のため、自信を持って大いなる変貌を成し遂げてもらいたいと思います。

—OBと現役会員の関係についてお聞かせください。—

私も、現役中ひどく気にかかる存在だった「OB」という範疇に否応なく組み込まれてしまいました。私のOB観は、会を愛していればこそ温かく見守り、時として建設的な「育む」という意識での言動をとることだと思います。だから、過ぎてきた自分の時代の価値判断で一面的に捉え、「会はこうあるべきだ。」等と会の活動を批評するようなOBには決してならないように心がけています。愛すればこそ気になるのは確かでしょうが、自分の愛した青年中央会と完全に決別することがOBとなった者の新しいスタートであり、新しい人生の幕開けになるのではないのでしょうか。毎年OBとなる卒会者の皆さんには「青年中央会よ、ありがとう!さようなら!」そして「青年中央会よ、永遠なれ!」と心から言える経験をしていただきたいと思っています。

【後記】

「威風堂々・ベンチャー」な小原OBのお話を伺い、どの会員も実感し、遭遇する現役会員のおもい・悩み・克服・達成、そしてなかなか割り切れない卒会者のあるべき姿を再確認させていただきました。小原OBにおかれましては、お忙しい中、長時間にわたりお話を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。(広報：平野忠司)



コウヘイの

## 突撃! 隣の委員会

～総務委員会編～

3月6日(水)、ホールサムインかいけにて行われた3月総務委員会を取材した。次月に迫ったレクリエーション例会の打ち合わせと聞いていた。本音を言わせてもらえば、あまり気乗りしなかった取材であった。入会以来一度も総務委員会を経験していなかったことも手伝い、『打ち合わせといっても、おそらく先例主義的に無難なところに落ち着くんだろうな。』と高を括っていたからである。しかし、実際に取材をしてみると、そんな勝手な思い込みを恥じなければならないほどの緊張感を持つ委員会内容であった。

まず、驚いたことに、競技種目の決定および内容詳細に至るまでがすべて完全分業制であった。だから、任された会員は各自で知恵を絞り、委員会の中でのコンセンサスを取得するのに必死であった。つまり、個人のプレゼンテーション能力をモロに試される場であったのである。最近マスコミをにぎわしたスズキさんやツジモトさんに負けず劣らず集中砲火を浴びる若い会員もいたが、決してその質問が彼らの自由な発想に水を差すこともなく、むしろ時間配分や競技上の安全性の確保といった過去に総務を経験した人間でなければ気の回らない分野でプラスの影響を与えていたようにも思う。

今回の取材を通して、①何かしらのアクションを起こすときにはその人の持つ知識とネットワークの質と量が露骨に出る(→だからこそそれを中央で磨くのだ!)ということ、と②他の会員(お客さんとも換言できるが)を納得させるためにはまず問題点を提起した上で考えられるマイナスポイントを事前に消去することが必要不可欠(→会場の下見に何度も足を運ぶような委員長と担当副会長が委員会をまとめています!)ということ、を再確認したわけだが、拝藤会員や内田(和)会員といった若くして会社の舵取りをしなくてはならない立場の会員が鍛えてもらっているのを見て正直うらやましかった。そして、つい最近卒業された某OBが委員長時代にあるイベントを企画されて、当時の執行部にはいかに賛成してもらったかではなく、いかに反対されないかということだけに心を砕いて企画書をまとめられたという話を思い出して、今更ながらに共感を覚えたのであった。

往々にして減点方式で評価されることの多い久古委員長率いる総務委員会の皆さん! 評価はあくまで相対的なものであって、プレッシャーの中で裏方に徹するあなたたちの努力は決して色褪せるものではありません。これからも頑張ってください。(広報:後藤公平)

## 寿の突撃! 隣の委員会

～政治行政委員会編～



我々取材班の今回のターゲットは政治行政委員会である。取材の基本として委員会名簿を確認。目に入ってくる顔写真はなかなかいかつい(野郎手...もとい「方」ばかりであるが、『我々には正確な報道を会員の皆様に伝える使命がある!』と意を決してホールサムインかいけへ向かった。

4月10日(水)。定刻に遅れた取材班は焦りを感じたが、そこに運良く安福会員が登場。彼の背後から潜入する。その瞬間、『あれ? 桐田会員! なんているの?』(←かなり緊張気味)次の瞬間、『捕虜になったのか?』と思っただが、Newカマーズ委員会から研修に来ていたのだった。

今月は「新入会員審査基準」や「5月例会の演目」などの検討で時間を超過した委員会が多く、「そこを政治行政委員会がどのようにまとめていくのか」が我々の最も注目した点であった。しかし、意見は多く出るのにそれぞれの検討課題がうまい具合にまとまっていく。意見が拡散して焦点が定まらなくなるのではなく、まとまっていくのだ。(『ナイス議事進行!』)

そして、浜田一徳会員の企業紹介の後、年間テーマである「市町村合併」について委員会としての考えをまとめるための意見交換が行われた。委員会として1年がかりで取り組んだ大きなテーマなだけに、慎重にまとめる作業に入っているのが感じられた。委員会打ち上げまでには練りに練ったひとしずくの結論が全会員へ披露されることであろう。楽しみに待ちたい。

我々も過去いろいろな委員会に突撃したが、政治行政委員会は一口に言って「ボケと突っ込みが入り乱れた委員会」である。副会長・委員長・副委員長をはじめ各会員は話の本流を決して外さないが、そこに細かなボケと突っ込みが入る。その全員の掛け合いによって実に面白い時間が流れているのだ!やはり政治行政委員会も「あんどり難し!!」。以上で報告を完了する。

(広報:植田寿雄)

## ミート崇永の突然! 広報委員会



4月3日(水)、デリラウンジ夢にて開催された広報委員会を新入会員の委員会体験ということで訪問しました。

定刻と同時に着いた席が、萬田副会長と後藤副委員長に挟まれた格好になり一気に緊張してしまいました。委員会の始まりは役員会報告で、これは私の所属するNewカマーズ委員会も同じでしたが、少し違うところは、参加されている会員が少しでも疑問のある場合にはすぐ質問され、またそれに対して正・副委員長や場合によっては副会長が補足される姿でした。委員会全体の雰囲気はとてもよく、笑いもあり終始和やかな雰囲気でも進み、決して堅苦しいとは思いませんでした。

広報委員会は中央会の顔ともいえるハンサム編集があるので、どのように作られているのかとても興味がありました。原稿案があり、記事内容を決め、それから原稿担当者を決めていくという細かな作業を通して出来上がっていくことに驚きを隠せませんでした。これからはハンサム全部に目を通そうとおもいました。

そして今回、幸か不幸か原稿を書く機会を与えていただいたときには、正直心の中で『あいきょ〜! (注:浜弁で“ビックリした”という意味)』とひとりつつこみを入れてしまいました。2次会・3次会にも誘っていただいたのですが、原稿のことで頭がいっぱいになり何をしゃべり、何を聞いたのかあまり覚えていない有様です。

しかし、こんな私にも気軽に話し掛けていただき、冗談で緊張をときほぐしていただいた広報委員会のみなさん、ありがとうございます。今後がんばります。

(Newカマーズ:小椋崇永)

【広報委員会から】

「青天の霹靂」の原稿依頼に誠実に応えてくれた小椋会員、本当にありがとうございました。『私は...』という口調が、酔うたびに『ワシはねえ...』と変わっていくところがとても面白かったです。貴殿の今後のご活躍を期待しております。



# 4月度委員会報告

## 政治行政委員会

平成14年4月10(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/12名  
内容/①3月例会反省

②委員会テーマまとめについて協議

## 総務委員会

平成14年4月10日(水) 於：ホールサムインかいけ 出席者/13名  
内容/4月レクリエーション例会打ち合わせ

## きずな委員会

平成14年4月10日(水) 於：米子食品会館 出席者/8名  
内容/モチベーション、女性登用等の参考になるようなチェック  
リスト作成について協議

## モラル委員会

平成14年4月12日(金) 於：じごん巢 出席者/9名  
内容/講師講演

演題 「すこやかな子供を育てるには」

講師 浜田一哉 副会長

## 経営委員会

平成14年4月8日(月) 於：オリエンタルキッチンパンチャオ 出席者/12名  
内容/土井一朗直前会長をお迎えし、「経営」について質疑応答  
形式でお話を伺った。

## 情報メディア委員会

平成14年4月8日(月) 於：(株)インサイト 出席者/12名  
内容/公式ホームページ作成について画像処理を習得

## 広報委員会

平成14年4月3日(水) 於：ディラウンジ夢  
4月23日(火) 於：米子葬祭会館 出席者/17名  
内容/①ハンサム5月号担当割・編集  
②小冊子について進捗状況確認  
③ハンサム6月号担当割

## Newカマーズ委員会

平成14年4月17日(水) 於：大連 出席者/13名  
内容/新入会員の各委員会研修の発表会を行った。

## 第22回皆生トライアスロンマラソン部の今回の運営方針について

マラソン部部长 小椋博之

今年度のマラソン部は、ボランティア精神にのっとり、出場されるトライアスリートの方々と共に泣き・喜び・感動できて楽しめる部会として作り上げていくことが基本です。そのためには、将来のマラソン部像も想像しながら、誰が携わってもやり易いようにマニュアル化を推し進め、共有財産として次世代に残していくことが狙いです。その一環として、今年度は以下の組織編成をとりました。

### 〔組織編成〕

※総責任者：マラソン部部长

※副総責任者(部長補佐)：マラソン部副部长

※マラソン部全体の運営統括(総務も含む)：運営統括責任者1名(副1名)

※マラソンコース上の全エードステーションの統括：エードステーション統括責任者1名(副1名)

※マラソンコース上を安全に運営できる体制をつくる統括責任：コース安全管理統括責任者(副1名)

※マラソンコースの設計(各機関へ許認可を取る)を主としての統括責任：コース設計統括責任者(副1名)

※マラソンコースの全設営における統括責任：コース設営統括責任者1名(副1名)

※各ブロック責任者(Aブロック～Dブロック各1名)

各職務を分離し、役割分担を明確にすることでスムーズな運営を図り、担当者ごとにマニュアルを作成してもらい、それを伝授していくものです。

なお、各ブロックには当会の新入会員を配置しますが、まずは小手調べの年ですからあまり無理のないように、そしてどの部員よりも楽しんでいただくことを目的として仕事をしてもらいます。新入会員の皆さんはどこに配属になってもどうぞ安心してください。

上記のように今年はやっと趣向を変えて運営しますので、各担当責任者の方々には迷惑をかけるとおもいますが、なにとぞ今後のマラソン部継続のためにご尽力いただきますようお願いいたします。また、どんな結果でバトンタッチできるかは不明瞭ですが、全マラソン部員一致団結して頑張りますので、中央会会員の皆さん、暖かく見守ってやってください。

## 誰のためのボランティア 自ら価値を見つけよう

### 感動はもらった!

### トライアスロン・ボランティア部の今年の関わり方

トライアスロンに関して基本的には例年と変わりませんが、手段と考え方を考える事から始めることにしました。

手段は、自らの仕事と同じく、作業内容の振り分けと部員全員の共有感を持てれば中央会会員の能力を持ってすれば大したことはありません。ITによる情報の共有と各メディアへのPR交渉、団体ボランティア依頼交渉などは若い会員にとっていい体験となることでしょう。我々会員は、入会当時「自己改革」を目的に入会を決意した方々がほとんどだと思います。自身にとって外部団体交渉は中央会会員だからこそできる良いチャンスです。井の中の蛙にならず大いに自分を発信する場所を見つけてほしいと願います。

中央会会員の視点からトライアスロン・ボランティアを見ますと、大変だと感じる「犠牲者タイプ」になるか、感動を自ら求め周囲と分かち合おうとする「貢献者タイプ」になるかはまさしく本人の意思次第です。

確かに「こんなご時世にボランティアどころではないわい。」と聞こえてきそうですが、自分自身の度量を推し量るのに目先のメリットを追うよりも、些細なデメリットを好み、自らのバージョンアップを計っては如何でしょうか?

有限会社ボランティア部としては「利益は感動と充実感」「提供するものは時間と知恵」「損失は無益な愚痴と噂」を損益計算書に表し、大会当日、決算報告を各部員から聞き出したうえで是非とも優良企業になりたいとおもいます。

たいそうな事を言ってきましたが、もちろん会員皆様のご協力なくしては出来ません。ただ、私個人としては、最後の最後に、手助けしていただいている岡本副会長の胸で泣ければ無上の喜びです。

会員諸氏に愛をこめて

曲がりなりにもボランティア部長 小林慎一より

# ぷろぢえくとX— 挑戦者たち — 第2回

～この文章は後藤公平がお叱りを覚悟で書き記した魂の叫びである～

## 驚愕! マドンナ清子に隠し子疑惑



▲いとおしそうに女兒を抱くマドンナ清子。側にはボーイフレンドらしき男性の姿が。

ついにわれわれはマドンナ清子の私生活をフィルムに収めることに成功した。大スクープである。謎のベールに包まれたマドンナ清子の素顔が、ついに暴かれる時がきた。彼女をよく知る関係者Aさんはこう語る。「ええ、よくふたりで出掛けていますよ。買い物も中心じゃないかなあ。」また、知人のBさんは…

「ペンは剣よりも強し」ということわざがあります。善意に、というより通常に解釈すれば「言論は暴力に屈しない。」といったところでしょうか。ただし、ちょっとひねくれた解釈をすれば「他人を攻撃するにはペンさえあればよい。」とも言えます。このことわざが持ち合わせる本来の意味を拡大解釈して、なおかつ「言論の自由」を隠れ蓑にし、自己主張の押し売りをするマスコミのいかに多いことか。

ただし、私はそれが絶対的にダメだといっているわけではありません。今年度3度目の広報委員会を経験するまでもなく、文章というものはどんなに客観性を持たせようとしても「自分=私」というフィルターを通して書かれる限り、必ず自己主張するものです(ミニコミであるハンサムはその傾向が顕著です…)。読み手は「与えられた」文章を一旦自分の言葉として受け止め、咀嚼し、消化しなければなりません。『〇〇新聞や△△テレビの言ってることだから(もしくは××会員の書いている記事だから)きっと正しいんだろう。』などという権威主義的かつ盲目的な姿勢は危険です。まれに嘘の垂れ流しもあるからです。だから、何が本当で何が嘘なのかを見抜く努力をしなければなりません。

左記の文章や写真なども、先日のレクリエーション例会を経験されている会員の方々なら開会式の1コマだとすぐに気づかれたことでしょう。しかし、事情により参加できなかった方はどうだったでしょう?まさか本気にされた人はおられないでしょうか…。

文章を書く上で大事なことは客観性をもたすことではなく、経験したことや結果に対し公平な自己評価を下すことだとおもいます。そこに一片でも悪意や皮肉がこもると読み手の読後感は180度その姿を変えることでしょう。読み手をたえず意識した書き手と、書き手を疑ってかかる読み手の真剣勝負の場がハンサムであって欲しいとおもいます。

(広報:後藤公平)

## 言わしてごしない

Part10

“他人の子どもを叱ったことがありますか?  
叱ってやれますか?”

先日、放置自転車の中にカギの壊れた数台の自転車が目に止まった。後輪のフェンダーを見るとA高生の自転車のようである。しかし、数分後にはB高生(男子)の2、3人が次々と乗って行ってしまった。次の日も同様に乗って行こうとしているので問いたですと、ブツサ文句を言いながらあきらめて立ち去って行った。でもなぜか、その日の夕方には新たなカギの壊れた自転車が放置され、案の定、例のB高生(男子)とC高生(女子)が乗って行ってしまったのである。そのようなことの繰り返しで、犠牲となった自転車は10数台にのぼる。

また、明るかろうが暗かろうが、デートどころか「寝技」をかけたりする高校生カップルがいる。その側を見て見ぬふりをする大人が通りすぎる…。私もデートごときは問いたささないが、さすがに「寝技」は見逃せず、無粋とはおもしろいながら声をかけると女子生徒が反発してくる始末。いったい、どうなっているのか?

そもそも、とりあげたこの2つの例だけでも、〇〇派出所の半径30メートル以内で頻繁に起こる出来事である。周りには多くの大人や警察官がいたはずなのだが、誰一人として注意をしているようにはおもえない。

近頃、政府広報では『他人の子どもを叱れる大人に!』と報道されている。次世代を担う高校生以下に対し、われわれ大人が悪いことは「叱り」、いいことは「褒め」てやらなければならないとおもう。中央会の皆さん!あなたの自転車が盗難に遭ったり、あなたの親族が危険にさらされたりしていることを再認識していただき、子ども達のためにご協力をお願いします。

(広報:卒会夢ちゃん)

## 天声ダダ語

ティガ、ダイナ、ガイヤ、そしてコスモス。この名前を聞いてピンとくる方はまだ小さいお子様がいらっしゃる家庭だと思う。そう、我がヒーロー「ウルトラマン」の名前である。昭和40年代初めから放送が開始され、世間がバブリーな時代に入り表舞台から姿を消した。そしてバブル崩壊後、先の見えない混迷の時代にまたその勇姿を現したのだ。

子供向けの番組だからといって侮ってはいけない。子供と一緒に観ていると、つい引き込まれ思わずジーンとしたり、目頭が熱くなってしまうのだ。そして、彼らは見る者に愛と勇気、信じる心の大切さを教えてくれる。

しかし、番組が終わるとニュースの時間になり、大人達が多くの人に迷惑を掛けたり、嘘をついたり、他人を傷つけたりと無責任なことを平気でしている。そんなニュースを観るたびに我々大人たちこそがもう一度ウルトラマンに学ぶ必要があるのではと思う。他者に対する優しさや正義を信じる強さ、正しいことを行う勇気を取り戻すために。

## 5月役員会報告

5月定例役員会が平成14年5月1日(水)、ホールサムインかいけに於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 5、6月例会開催の件
- (2) 収支見込みの件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

## 5月例会案内

と き 平成14年5月15日(水)  
と ころ 夢みなとタワー内ホール  
テ ー マ 温故知新、会長とさして話そう  
タイトル 「原点に帰ってるかい?—会長との会話」